

花 曆 卯 月

「到津の森」の三大樹種は、シイ・タブ・クス。
その中でも「樟若葉」と俳句の季語にあるよう
にクスノキの若葉がひとしお美しくなる四月です。

はじめは赤っぽい新葉が、数日のうちに緑濃
くなり、下から見上げる葉の裏面は淡緑、わさわ
さと春風にそよぐ華やかさは見飽きません。

九州では広く山麓に、寺社や公園に、見慣れた
親しみ深いものですが、本来暖地性で滋賀県琵琶
湖の竹生島が栽培の北限であると聞けば驚きです。

私達はヒトツバタゴの白い花をナンジャモン
ジャ（見慣れない種類の大木）として珍重しま
すが、関東地方ではクスノキもナンジャモン
ジャの一つだそうです。

そういえばクスノキの巨樹ランキングを見れば
上位はほとんどが九州の住人で、私の大好きな
大分県「柞原八幡宮のクス」（国内7位）は、樹
齢3000年といいながら樹勢たくましく青年
の趣き！

それなら山口県「川棚のクスの森」は樹齢
1000年。

たった一本で「森」と呼ばれまだまだ若人の
勢いでたくさんの枝を伸ばし、長いものは
27mもあり、地面すれすれの枝先には初夏
小さな花をつけ、さわやかな甘い香りがある
事を知らせてくれます。

ふだん樹上高く咲く花にお目にかかる事は
ありませんものね。

古代より霊木として敬まれ、用材として愛
されたクスノキ。

遠い将来、到津の森にも固有名詞がつく
程の巨樹が育ってくれる事を希って、園内
を歩いています。

文：花咲くおばさん

森のなかま・ホウシャガメ

～密輸されてきたカメたち～

3月下旬から5月上旬の間、「里のいきもの館」では、その名の通り各甲板の中央から放射状に黄色またはオレンジ色の模様がひろがっているリクガメ『ホウシャガメ』を展示しています。

今回は、その『ホウシャガメ』を紹介させていただきます。ホウシャガメはワシントン条約の附属書に掲載されている種で、マダガスカル南部の乾燥地帯に生息していて、草本や花、果実や多肉植物などを食べて暮らしています。

また古くから食用やペット用として捕獲されてきたため個体数が減少してしまいました。現在ではマダガスカルの国内法で保護の対象とされており、ワシントン条約で国際的な取引を禁止することにより守られています。

しかし、今でも違法な捕獲は行われていて、日本国内でも違法取引により摘発されています。

こうやって摘発されたものが保護されて動物園などにやってくるのです。

こうしてやってきたホウシャガメたちを、ただ、飼育・展示するわけにはいきません。

個体数が減少しているホウシャガメを増やすため、現地や他の園館では繁殖が試みられています。

私たちも繁殖につながるよう日々がんばっていきたく思います。



飼育展示係 石橋佑一